

【講演録】

第二代社長 佐々木郁夫講演より (昭和55年10月4日弊社創立記念日あいさつ)

創立 15 周年の記念日にあたりまして一言ご挨拶を致します。昭和 40 年 10 月 4 日会社が設立されてから 15 年が経過致しました。早いものでいろいろ遡って考えてみますともう 15 年経ったのかと思うような、光陰矢のごとし、という感そのままの感じでございます。昭和 26 年に会長が会社を興してからは 29 年になるわけですが、会社が正式に株式会社として設立されてから 15 年ということでございます。

(中略)

この工場が出来ましてから 13 年にならんとしています。最初に手をかけてからという意味ですが。それが最初の 5 年計画で一部出来上がり、さらに次の 5 年計画でそれに増設されて、途中で不況になって挫折をして、まだ完成を観ていないわけです。しかしこれらからさらにいろいろ計画を練り直して、もう少し働き良い職場にしなければならない、そういうふう考えております。

(中略)

ここで皆さんにお願いしたいことは、企業は常に存続していかなければならないと思いますし、またそうでなければならぬ、途中で挫折してしまうようなこ

とではいけない訳であります。ところが世の中は、どんどんどんどん進歩しますし、いろいろな変化が出て参ります。その変化についていけなければ、人後に落ちて、企業は消えていかなければならない、そういう運命にある訳であります。私共は 15 周年を迎え、日本の企業の平均寿命に達したところで、改めてこの先ずっと永続的な企業でいられるように頑張ることを、皆さんと共に誓いたいと思います。その為に必要な事はなんだろうか、ということを考えてみましたら、こういう事ではなかろうかと思えます。これは私自身にも、皆さんにもよく考えながら日常の作業に取り組まなければならないことだと思いますが、その道のトップであれば、業界であれば、あるいは鉄構業界であれば、その鉄構業界の技術的にも内容においても、どの点からみても、一番優れた企業であれば、これは世の中が必要とする企業という事ですから、どこまで行っても消えることはないだろうと思えます。その為に必要なことは、それぞれの立場で、自分の取り組んでいる仕事のエキスパートになる事あります。どこから見てもプロとして通用する、そういう技術を身に着け、仕事に取り組む、そういう姿勢が一番大切なのではないか、こういうふう考えます。

(後略)



元岩手県知事、増田寛也氏と佐々木郁夫社長